

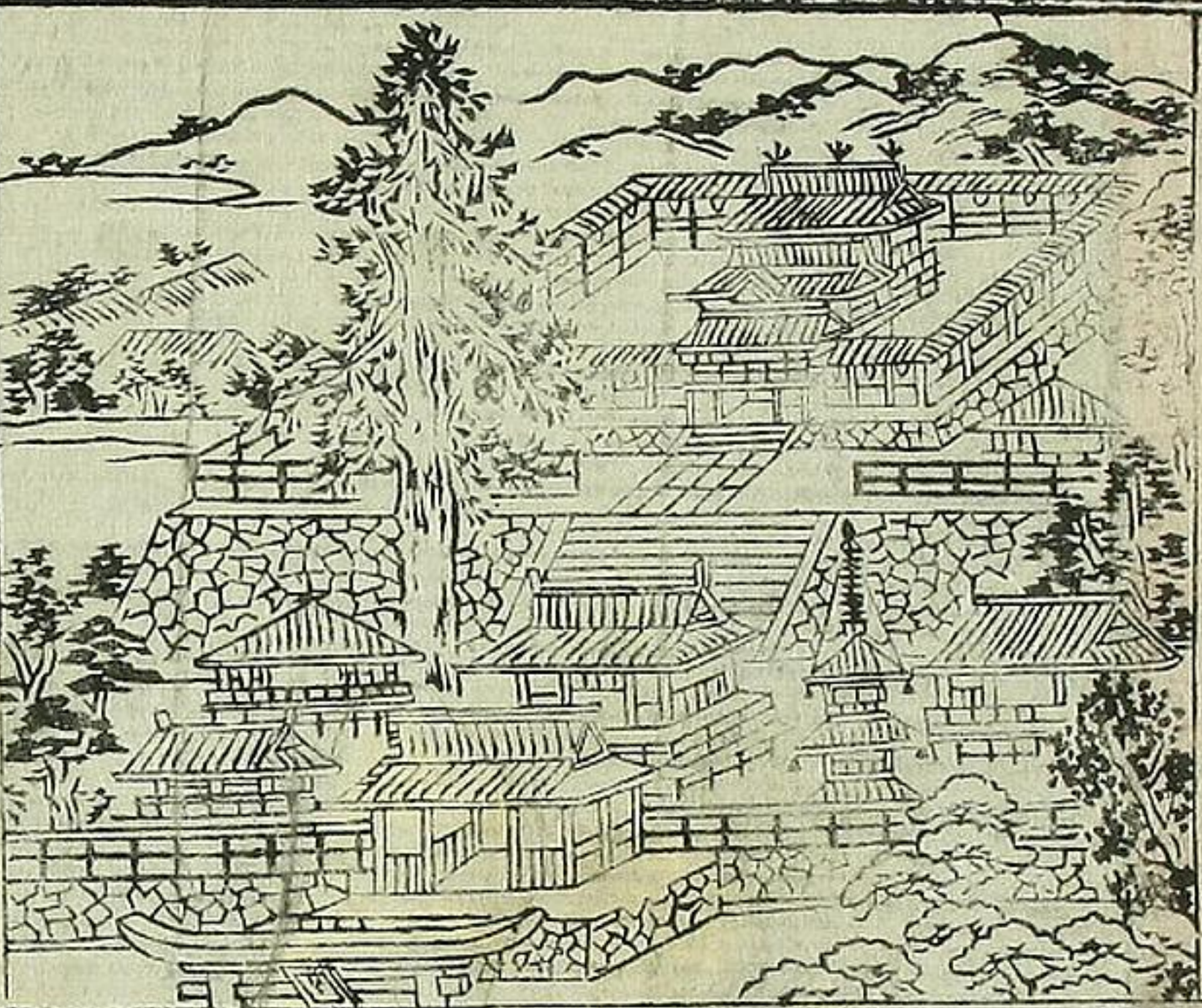
津田文庫  
文庫 1  
1827  
2



010190617438

早稲田大学  
図書館蔵書

鎌倉鶴岡八幡宮之圖



まはりの庭多しとくまゝに茶代もいづもりのりかろくまゝに実朝公

北條	名越	赤橋	新目模	津久井	石田	岡崎	和田	三浦	津久井	石田	岡崎	和田	三浦	津久井	石田	岡崎	和田	三浦
一册	九册	九册	一册	一册	二册	三册	三册	一册	一册	二册	三册	三册	一册	一册	二册	三册	三册	一册
北條	名越	赤橋	新目模	津久井	石田	岡崎	和田	三浦	津久井	石田	岡崎	和田	三浦	津久井	石田	岡崎	和田	三浦
一册	九册	九册	一册	一册	二册	三册	三册	一册	一册	二册	三册	三册	一册	一册	二册	三册	三册	一册

御外戚北條殿

桓武天皇十一代北條四郎大夫

時家男

平時政

宗時

義時

政子

時房

女子

女子

女子

女子

従五位下

遠江守

北條三郎

於土肥杉山討死

江間小四郎

正五位下陸奥守

頼朝卿御簾中

二位后

北條相摸守

足利義兼室

富山重忠室

稻毛重成室

阿野全成室



北條遠江守時政

伊豆

頼朝公伊豆が然と急いで出時政を頼りて時政  
 時政に子息ありて小二を多しとて多しを女  
 政子の方と申中と一源氏再長と稱すを多し  
 終に山本義隆氏に石橋山に戦ひ勝てて時  
 付死すに依りて在國と爲りて時政の功を  
 是より政子の補けて其威威通枝の上と云り  
 一門盤局にて時政の威と有り依りて後進を  
 然れども其性好曲にて家小が家々録 女  
 後妻がの方の後と信 功居録又響 女  
 朝雅と名軍と見と射りて幸ふが後の方の

女子 河野通信室  
 女子 平賀朝雅室  
 政範 北條左馬助

泰時 武藏守  
 朝時 左京大夫  
 重時 名越遠江守  
 政村 赤橋相摸守  
 女子 北條相摸守  
 實泰 佐々木信細室  
 女子 陸奥六郎  
 女子 三浦泰村室  
 有時 北條越後守  
 時氏 北條修理亮

時政の伊豆の御所を治すに専ら



北條陸奥守義時  
 相摸

義時の時政の二男の悪を以て其の功  
 表の忠良小御所を以て其の功  
 臣を教へて其の功を以て其の功  
 の功を以て其の功を以て其の功  
 政を以て其の功を以て其の功  
 運を以て其の功を以て其の功  
 由を以て其の功を以て其の功  
 依を以て其の功を以て其の功

時實 同二郎  
 女子 足利美氏室

義貞の爲に其の功を以て其の功  
 皆悉く其の功を以て其の功  
 傍寺の爲に其の功を以て其の功  
 一時に止むて其の功を以て其の功



北條武藏守泰時  
 伊豆相摸

義時の時政の二男の悪を以て其の功  
 表の忠良小御所を以て其の功  
 臣を教へて其の功を以て其の功  
 の功を以て其の功を以て其の功  
 政を以て其の功を以て其の功  
 運を以て其の功を以て其の功  
 由を以て其の功を以て其の功  
 依を以て其の功を以て其の功

1827-2

北條家 名越

義時二男  
平朝時  
名越遠江守

光時 北條越後守  
時章 名越尾張守  
時長 同 備前守  
時幸 周防修理亮

同 赤橋

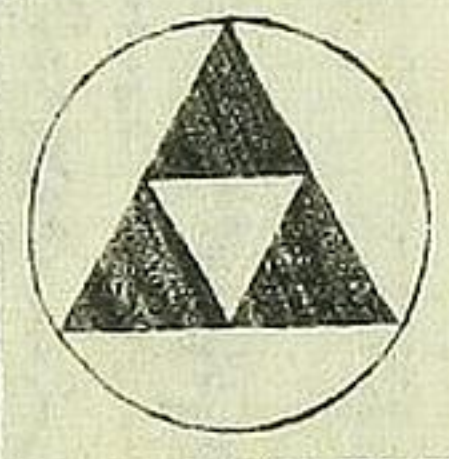
義時三男  
平重時  
赤橋相模守



名越遠江守朝時

義時の二男少く武勇の俊あり義之の曾  
戦少く北陸道の之おと次て功あり

時兼 北條左近將監  
時教 同 中務太輔  
時基 同 刑部少輔



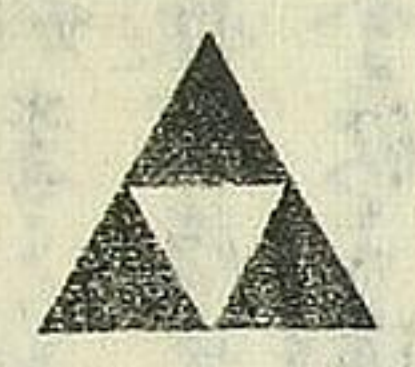
赤橋相模守重時

義之三年小侍所の別當職と成り朝時  
の

長時 武藏守  
時茂 左近將監  
義政 駿河守  
業時 彈正少弼  
忠時 陸奥十郎

同 新相模

義時四男  
平政村  
左京大夫  
從四位下  
時村 新相模右京大夫  
宗房 同 四郎  
政長 同 駿河守



新相模左京大夫政村

政村ハ義時の四男之兄重時と代り  
執權時村の加判となる政幸小功あり

時小加判の列小加らるる又左京にて  
波存小加判にてめ内内紙始り中園九列の  
成放と有り政幸の功あり子孫を  
赤橋幸重陸奥十郎と稱す

鎌倉正金

同

金澤

美時六男  
平實泰

陸奥六郎

實時

金沢掃部助

顯時

同 越後守

時家

同 美作守

實政

同 上総介

同

伊具

美時七男  
平右時

北條駿河守

通時

同 式部太輔

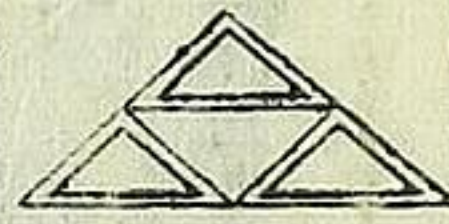
兼時

同 駿河六郎



北條陸奥六郎守時  
武藏

兄弟子孫の御代に於ては仁厚の人にして侍所の  
別者として金沢守宰守の御代に於ては  
孫越後守顯時の文章の志ありて文庫と  
金沢守達て儒公の古紙収むる文庫と云



北條駿河守右時  
駿河

有財の美時の妻の御代に於ては  
此の孫と伊具と稱すと

同

佐介

時政三男  
平時房

北條武藏守

時盛

從四位下越後守

時村

相模三郎

資時

同 三郎

時直

同 遠江守

時定

同 右衛門尉

時弘

同 越前守

時隆

同 式部少輔



北條武藏守時房  
武藏

時房の御代の三男として美時の御代に於ては  
此の時直と時村の御代に於ては  
時直の十年系連を加封ありて美時守  
美連と稱すと稱すと稱すと  
時房の御代に於ては  
時直の御代に於ては  
時村の御代に於ては  
時弘の御代に於ては  
時隆の御代に於ては

同 金澤

美時六男 平實 陸奥六郎

實時 金沢守

觀時 同 越前守

時家 同 美作守

實政 同 上野守

同 伊具

美時七男 平有 北條

通時 同 河内守

有助 佐目僧正 兼美 伊具八郎

同 佐介

時政三男 平時房 北條武藏守

時盛 從四位下 越後守

時村 相模三郎

資時 同 三郎

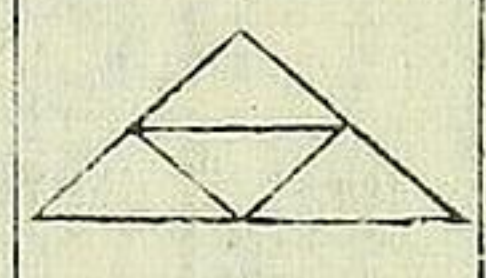
朝直 同 遠江守

時直 同 遠江守

時定 同 右近將監

時弘 同 越前守

時隆 同 式部少輔



北條武藏守時房 武藏

時房ハ時政の三男也て美時の子之姪の孫  
み常時連といハ頼朝々の内孫也抄りて  
佐介の十一年美連が加冠ゆて元復甘り  
美連一字と授けて時連と号すと後よ  
時房と改む也時と同とく常時守  
後と云美時死すて美時の子孫ハ  
其の子孫ハ佐介美常相模守也  
其の時房より出たり

時隆 同 式部少輔

三浦

桓武天皇四代高望王三男  
鎮守府將軍良兼七代三浦平  
太郎為繼男

平義繼 三浦太郎

義明 三浦大介

義行 津久井二郎

為清 芦名三郎

義實 岡崎四郎

義宗 杉本太郎

義澄 三浦介 義二郎

義久 大多和三郎

義春 多々良四郎

義季 長五郎

重行 杜六郎  
佐原二郎  
富山重忠室

有細 三浦平六駿河守  
土佐岡守護  
山口二郎

重澄 大隅守  
平判官  
三浦十郎

胤美 三浦若狹守

友澄 同少太郎右左尉  
河内守

光村 同 式部太輔

氏村 同 同四郎左門尉

家村 同 同五郎左門尉

資村 同 同六郎左門尉

長村 同 同六郎左門尉



三浦介義澄  
相模

義澄の父義明三浦の嫡子義宗早世す  
よりの三浦の位を継ぐ生後勇助ありて人  
荒二弟と稱す平治の戦少の悪源をよ  
ほひ十右衛門の一人之依成義宗の附大ぬの  
言紙あり以傳方中流の如く丸三川流氷  
あて渡るるをえぞ合戦小かく是敵大危  
が被と放火一門とたよみふるを依成  
房の房の海上ありあり合ひまの  
の軍切あり依成義澄が父大ぬの  
あて一族の義勇と勅めを一人の  
みうしのまけよ



三浦駿河守義村  
相模

義村の義澄が長子との武勇と稱す  
度々功あり建暦二年の月後才和同義  
澄保叛の討とまるととも又難  
少條よ通む放ふ義澄の討おせ  
終ふ一族三日三夜の戦お急くとびぬ  
室小義村が及後ありり義村忠よ

重村 同七郎左門尉  
龍村 同八郎左門尉  
美次 大和守平六  
女子 後佐原盛連室

三浦家 津久井

三浦義繼二男 津久井二郎  
平美行

為行 武藏太郎  
高行 津久井二郎  
美光 同 三郎

同 石田名

美繼三男 若名三郎 為清男

平為景 若名三郎

清高 同三郎太郎  
為久 石田二郎

同 岡崎

美繼四男 岡崎四郎  
平美實 佐名田与一

美忠 土屋大學助  
美清 岡崎千太郎

實忠 同先三郎左門尉  
惟平 水原先三郎  
實久 山内先二郎

政宣

兼言式監

似たりと龍皇孫... 助の後... 子孫... 滅亡...



津久井二郎高行

相模

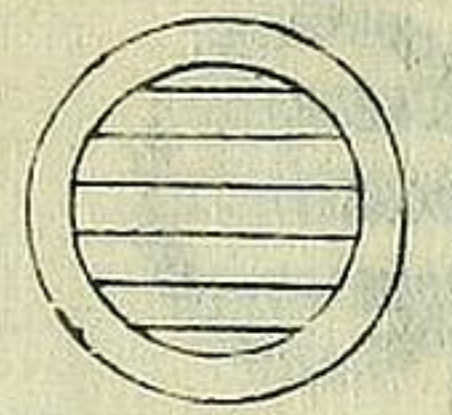
為久一族... 為久の始り... 功あり



石田二郎為久

相模

為久一族... 為久の始り... 功あり



岡崎四郎義實

相模

美實の始り... 美忠の始り... 美清の始り... 實忠の始り... 政宣の始り...



美國 岡崎太郎  
實村 同 二郎

八月十七日の夜軍... 一人... 我... 俣野の...  
 の希... と... 押... 槍... 長... の...  
 六... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...  
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...  
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...  
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

同 和田

大介美明長男 杉本太郎  
平美宗 和田小太郎  
美盛 左工門 扇  
美茂 同 小二郎



和田左衛門尉義盛  
相模上総

美盛... 美明... 美茂... 美盛... 美明... 美茂... 美盛...  
 美盛... 美明... 美茂... 美盛... 美明... 美茂... 美盛...  
 美盛... 美明... 美茂... 美盛... 美明... 美茂... 美盛...

宗實 同 三郎  
美胤 同 四郎  
美長 同 五郎  
常盛 和田新左衛門尉  
美紙 同 二郎  
美秀 朝夷三郎  
美直 金窪四郎左門尉  
美重 和田五郎右兵衛尉  
美信 同 六郎右兵衛尉  
秀盛 同 七郎  
美國 同 八郎

多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事...  
 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事...  
 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事...  
 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事...  
 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事...  
 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事...  
 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事... 多事...



同 高井

美宗二男 平美茂 和田小二郎

重茂 高井三郎 右兵工尉

時茂 同右兵工尉

實茂 同四郎

美村 同兵工四郎

美重 同十郎

同 由井

美宗三男 平宗實 和田三郎

和田小二郎義茂 武藏

美茂の兄義盛ときよ丸み川中て  
守意と我ひ勇を致しを後  
軍功ありを子重茂の和国合戦の時  
以給ふあり給美茂秀と細を討死せ  
後て(嵐)と世あるを子重茂の浦  
本村より自害せ

和田三郎宗實 相模

同 和田

美宗四男 平美胤 和田四郎

胤重 同太郎

胤定 同二郎

胤平 同三郎

同 荏柄

美宗五男 平美長 和田五郎

胤長 荏柄平太

和田四郎義胤 相模

美胤一族とひくく平の戦場は  
おもひきる縁うくお家家よはて  
忠あり

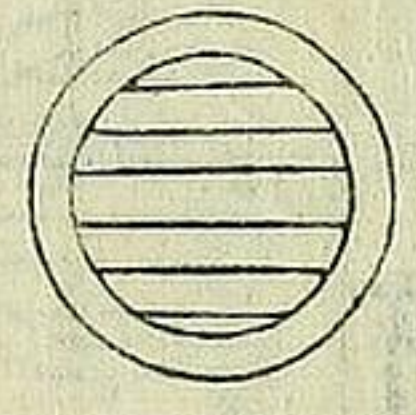
荏柄平太胤長 相模

胤長の親家々の寵はるり和田の平を  
ともいふ建仁三年六月朝日親家々俣

巨の國邊覽の時伊東が徳の山中ふとさきある洞あり人々其の  
 海を流るる流長は終て是と見えしありあり平吉則高等と奥  
 松原の原にては平吉を多と大地ありて是は平吉の流と見え  
 て一人の言ふる忽たすと大地流長を呑んと是も其の平吉の時  
 ちかど接て斬殺し候と見えし人とする冷氣潭と見えし  
 熱身痛むるをい候と見えし是よりゆりあるの由と見え  
 今期己の初小入りゆり時ハ酉の刻三人皆驚くおとれぬと見え  
 の後平吉千壽丞と見えし少條と見えしと白水少次郎親徳と  
 其小同志の輩百二十餘人と借し秘密に企安全とし候と  
 見えしと見えしと見えしと見えしと見えしと見えしと見えし  
 捕られ流長も囚人と見えし伯父義盛一門と見えしと見えし  
 行方と見えしと見えしと見えしと見えしと見えしと見えし

同 大多和

義明三男 平義久 大多和三郎

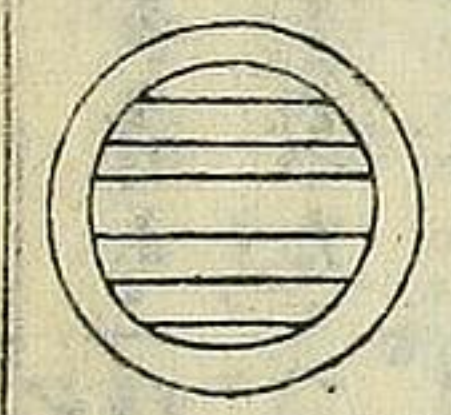


相模 大多和三郎義久

義成 同三郎  
 久盛 同四郎  
 久村 同五郎  
 重秀 同六郎  
 義胤 同七郎

同 多々良

義明四男



相模 多々良四郎義春

平義春

多く良四郎

光春

同二郎

重春

同三郎

明宗

同四郎

重家

同四郎太郎

茂春

同小二郎

光連

同三郎右兵衛尉

同

佐原

義明七男

平義連

佐原十郎

左工門尉

景連

同太郎右兵衛尉

盛連

同二郎遠江守

家連

同三郎肥前守

政連

同七郎左工門尉

千葉

小我功あり和由三浦とびて後世家系と傳へて後倉比田長弁章を存する皆以義連と相續とす

桓武天皇四代高望王三男鎮守府將軍良兼八代千葉介常重嫡男

平常胤

千葉介

胤胤

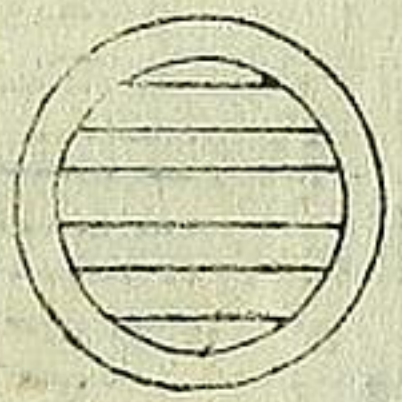
三井寺律師

胤正

千葉新介

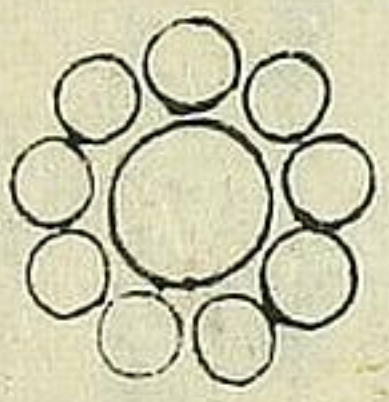
師常

相馬二郎



佐原左衛門尉義連  
和泉紀伊

義連の太女の子也武勇人小すく色てそ文  
つた山條色り又才智ありゆより右幕下御小  
のりゆり山條時政が三男殿中より之後の時  
義連が如射して時連と号し人皆是を義連  
一の吾全我の時義連の多小奉一職試の  
坂藤ふ一番繁盛あり八幡權の浦の軍  
のりゆり山條時政が三男殿中より之後の時



千葉介常胤  
下繪

掌胤ハ下總小在て太身也佐原石橋山の  
我ハ小利き房州へ後アとのハ友九弁  
登長とりて老胤ハ下由とヤさるハ  
附ハ老胤子老胤集りて登長のヤと首と

胤成 武石三郎  
胤信 大須賀四郎  
胤通 國分五郎  
胤頼 東の六郎  
從五位下

も早く出陣入京上まで一とひは流子息の宗公を中量し  
一族孤率として内陣へあるはより一の戦功ありて平家退討の  
宗公の統制小附られ孫会の中目代と令せし軍中の指揮役  
たりとありありと武衛左衛門尉時宗流一番小貴となりて賞  
賜ふ給ふべき先は胤成の功なりと後他ふらひは胤成の精忠  
ありありと兼て中務右衛門尉の故之を胤成の室に嫁せしを宗公に  
女中とせし宗公の伯母に達仁元承暦三月廿二日卒とありて  
おろし息の宗公の伯母に達仁元承暦三月廿二日卒とありて

常胤嫡子

平胤正 太即千葉介

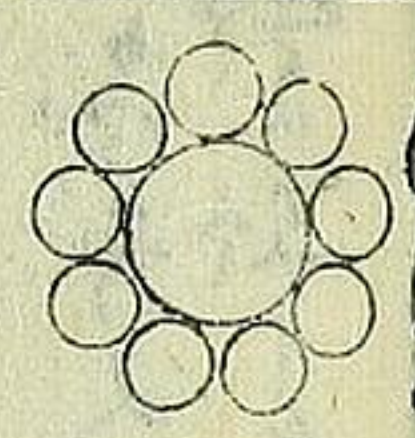
成胤 小太郎千葉介

胤綱 千葉介

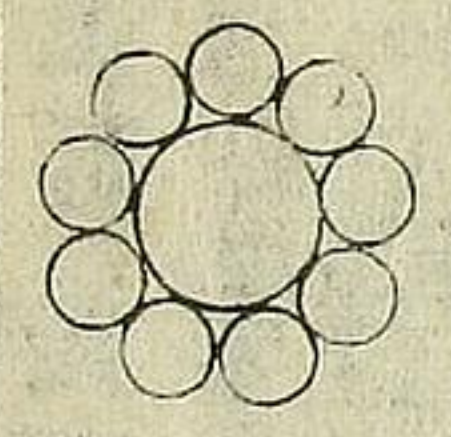
胤正の兄の僧とて三井寺に在りて律師  
胤綱と云天台の碩学ありて後代の  
胤成は光厳の鳥居のありて胤成の  
胤成は光厳の鳥居のありて胤成の  
胤成は光厳の鳥居のありて胤成の  
胤成は光厳の鳥居のありて胤成の

同 東

常胤六男



千葉新介胤正 下総



東六郎大夫胤頼 下総

平胤頼

東六郎 從五位下

重胤

同平太 所右兵工尉

と東の野列と種と和奇の傳は流るる人こそ孫繁昌也

同

堀

常重二男  
平常實

十葉五郎

定常

堀平太

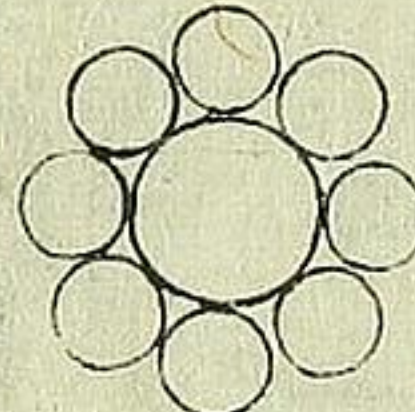
常秀

同平二右兵工尉 上総介

時常

垣生二郎

時常の三浦審村が及運よふと付死す



堀平太定常

下総

定常の常胤の擧げ佐藤義家の時伊豆へ参りて内多小使いしもの常重の軍より功あり堀を以て氏と名をよむ常秀又功あり上総介を任せし孫

一総

桓武天皇四代高皇王三男良無  
八代上総坂太郎常家男上総介  
常明長子

平常隆

上総介

常景

伊北新介 八郎上総介

廣常

天羽庄司 相馬九郎

直胤

金田小太夫

常清

八郎

良常

上総介

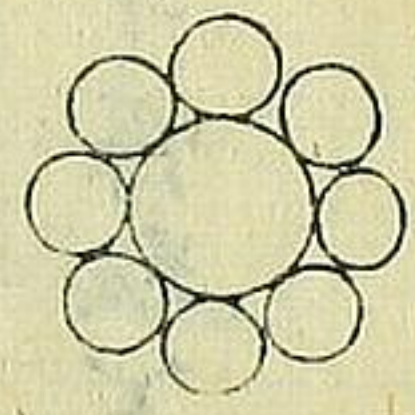
定常

上総介

秀胤

上総権介

一族の門具一早速彦常系五と知彦系の時尾籠を極あり



上総介廣常

上総

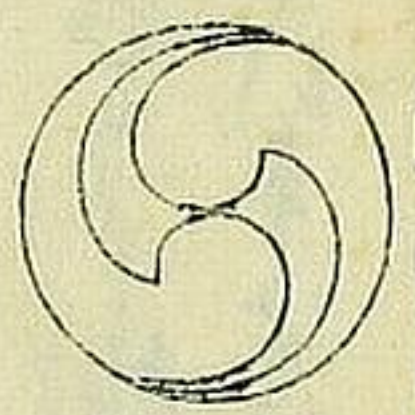
廣常の十葉の國流之代は源氏小系一保元の軍より功あり平治の義朝は信長元年十六歳の一人と右幕下佐竹時を始して新の戦の功ありたりて又祖の如く上総介を任せしは始あり佐藤房州小太夫の時廣常一書小系をばさ不運いあ場よりありて佐藤もるも佐藤由便と終らるる教の世に在りて

義又回恩と忘却し長田忠致小僧のんともありて頼朝自ら征討を加ふ  
 べしとて度々使て今依成後軍の後由勢より度々大軍を起れり  
 けり後あり實小源氏再興の大將軍之世に於ては微勢の頼朝偏よ  
 依と頼朝もあつて言次舉げて中ぬりて頼朝を不核頼朝向い小勢の依  
 及と我大軍由て頼朝に中捕りて平家入るる六共其後頼朝のん  
 小大勇の山根三威とる小僧ありてとて平家と率して来りて依成  
 以公解のりて後成由べしとせらるる度々忠入て是よりたふさ  
 願しとて平家亡いて後成を今方有後成する者ありて喜ぶ  
 平家中所よりおいて教ふるに後成なるを平明白とらふよりて  
 志とてとらふより自ら家成とてとらふも平流の時之浦  
 岩村小一味とて後成を成して保級とせりて付するに後成は  
 戦い付たりて成地とせり

小山

左大臣魚名公五代鎮中將  
 軍秀卿六代大田太郎行政男  
 藤原政光 小山下野大掾

朝政	同下野判官左門尉
宗政	長沼五郎左門尉
朝光	結城七郎上野介
朝信	吉見二郎
長村	小山判官
朝長	同新左門尉
時朝	小山修理大夫
時長	同下野大掾
宗光	同七郎左門尉



下野  
 小山左衛門尉朝政

朝政は代々源氏小房と依成義等の始より  
 兄弟ありて二の忠とて又故六條の親友  
 忠義の三男志田元生義成孫念宗親  
 自立の企の時朝政とて馳向ひ義成とて  
 為し平家追討の首の軍より勇と  
 振ひありて義成との合戦より先登りて  
 功ありて討ちの首等保志より承承代  
 六二池二年三人戦功ありて孫念宗  
 義成の孫朝政とての義成の孫朝政  
 義成の孫朝政とての義成の孫朝政

鎌倉正鑑



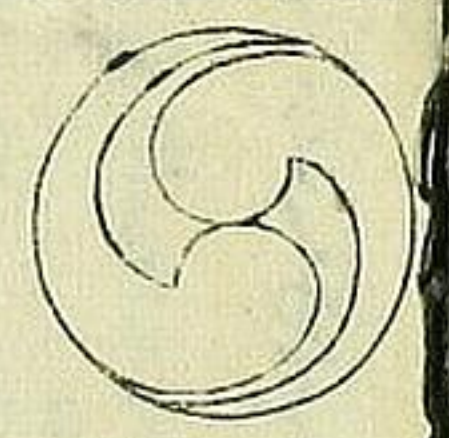
「政村 薬師寺河波守

右幕下小山が叛不入ある朝政の又政光由あへてゆれと申  
 山例の熊谷小三郎忠家おぼろしく政光彼若老の信あやと信  
 右幕下の信不足八日廿一の別者熊谷三郎忠実の嫡子ゆゆ  
 忠家之とのあり政光初日廿一の別者若老の信あへてゆれと  
 彼等父子戦時を離れ毎ふまのまよ進み本意進付の時迄の  
 揚ふてゆれと後して敵討たる又一の吾西の本戸あへて二と  
 案ひて敵中へ入る扱と殺りとの然れども政光は然らずて  
 政光がては若老の信不足とわけて軍させぬ自身は信あへて  
 向後八日廿一と云ふ一騎馳の軍を以てして信あへてゆれと  
 申すは是も申すも公之身を知るべし朝政は後由故してゆれと  
 申すは眞以年日月晦日卒を以年廿四日卒を以て連録する

同 長沼

政光二男

藤原宗政 長沼五郎淡路守 左二門尉



長沼淡路守宗政 下野

時宗 同淡路守 政能 同左二門尉

宗政の武勇の人少く軍功ありて  
 細系と申すは其の上旨信家ある正治  
 二年和因三浦子業程と始りて六  
 十之連ありて梶原景時が悪事を始りて  
 有と久ともいふるまやありん判状を加つて後人皆是  
 と御書と其の縁を以て昔川を氏とす

同 結城

政光三男



結城上野介朝光 下総

無 倉式 益

藤原朝光 結城七郎 上野介

朝廣 同七郎 太歳少補

時光 寒川四郎左衛尉

重光 山川五郎左衛尉

朝村 細戸十郎

廣細 上野介

祐廣 上野介

りて是を制するより 却て西園と云ひぬて世を中と再び  
朝光小令りて朝光畏て流亡中回の由とのへ又書中乃  
理を以て其制を言信論して威風凛然たるを危を感して  
先の男の言を以て他を以て其制を言信論して威風凛然たるを危を感して  
あつた

朝光の時 朝光と云ふは中にてぬりて代りて上野介小令りて  
子孫に傳へたる

同 細戸

朝光四男

藤原朝村 細戸上野十郎

長廣 同下総守



細戸十郎朝村

下野

朝村ハ朝光が末子にき川那細戸のやど  
毎より傳られて世を巧むるの者あり  
朝光の時 一條良字の方ハ内知の者朝光の由合身  
福五系細戸一小子を朝光と名てて危を感して  
内秘の事あれば危とすれども又ハ飛鳥の枝へ出る道智の人々  
あれてを以て朝光の由を以て朝光の由を以て朝光の由を以て  
彼を以て朝光の由を以て朝光の由を以て朝光の由を以て

幕府の御用儀に任じて御用儀の御用儀の中は御用儀に  
あつて御用儀の御用儀に御用儀の御用儀に御用儀の御用儀に  
是の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に

下河邊

下河邊庄司行平

大田太郎行政二男

藤原行義 下河邊庄司

行平 同庄司

政美 益田左工門尉

行秀 下河邊六郎

行光 下河邊左門尉



下野

行平の小山の一族にて朝政の御用儀に  
志田合我小勇と稱して又御用儀の御用儀に  
上野の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に

朝行 同 四郎

行時 幸島四郎

子孫の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
右の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に

佐野



佐野太郎基細

鎮守府將軍秀卿五代淵名  
大夫兼行長子足利大夫成行  
嫡男  
藤原家細 足利孫太郎

俊細 足利太郎從五位下

有細 同 七郎

高細 山上五郎

基細の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に  
御用儀の御用儀の御用儀の御用儀の御用儀に

基綱 佐野太郎

廣綱 阿曾沼民部丞

信綱 木村五郎

忠綱 田原又太郎

あり佐野と同日く忠義を以て山止の命を以て徳も武名も一

園田

太夫成行二男

藤原成實 園田七郎

成澄 同太郎

成基

俊基 淡路守



多んどのたらしまりす  
上野 園田太郎成澄

一族佐野と同日く佐俊小孫の軍功あり上野小孫を孫俊基の淡路守とすの領を

大胡

成行三男

藤原重俊 大胡太郎

成家 同二郎



大胡太郎重俊  
上野

重俊も佐野の一族之武勇の才えあり代々よす世ふ佐也

佐貫

兼行六代孫太郎廣光男

藤原廣綱 佐貫四郎大夫  
右工門尉

秀綱 同六郎左工門尉

時綱 同太郎

廣房 同二郎

親綱 同右兵工尉



佐貫右衛門尉廣綱  
上野

廣房源氏小孫の功あり子孫を角時經ハ大カ人小孫より秩父重太郎重俊也大井三郎世々人々を天下の双の才力と稱す

大河戸

秀郷五代大田別當武行三男  
藤原行光 大河戸四郎

行方 同下野権頭

廣行 同太郎

秀行 清久三郎

行元 高柳三郎

行平 葛瀆四郎

關

武行三男

藤原政家 關左郎五郎

俊平 同四郎

政平 同太郎

隆宣 日光山長史  
法眼真如房

政綱 左工門尉

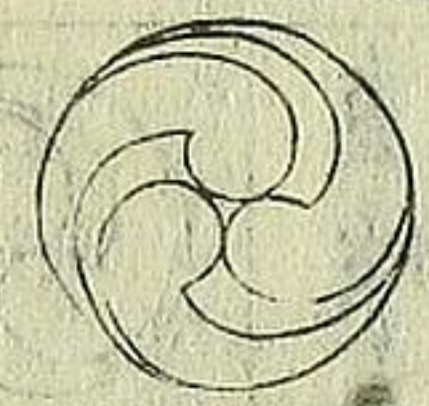
政恭 左工門尉

實忠 左近將監



大河戸太郎廣行  
武藏

廣行の浦之み養明が尊之才之  
とた小浜氏小はく功あり是も  
小山の親と一族あり朝政の又  
政光の行光の兄大田を弟に政光  
あり



關左衛門尉政恭  
下野

關も又源氏の旧息あり政家の才二弟

政平の平治の合戦小養明は屬し  
養平十六の孫のそ一人之後平も養  
朝の身ゆ從ひて我功と稱はるる  
政平の故ありて志田の先生養廣は  
從ひ小山の朝政の一族に付て  
從向ありて養廣は養廣を  
和國養隆謀叛の時也所方小ありて和國勢と戦ひて  
付死すと云切よりて實忠とた  
西條より叙下るる養光の由は實忠は條養耐小從ひて平治  
川と渡し軍功ありと

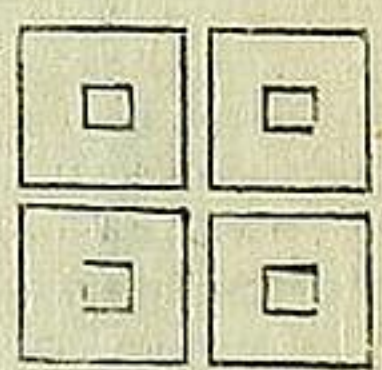
佐々木

宇多天皇王子一品敦實親王  
七代佐々木源三太夫季定男

源秀義

佐々木源三

定細	同太郎左門尉
經高	二郎兵部丞
盛細	三郎右兵尉
高細	四郎左門尉
美清	五郎隱岐守
源秀	吉田法橋



佐々木源三秀義  
近江

秀義ハ十三歳の時六條の判友為家の  
養子と成リ其母は志保の保元  
平治の合戦中も義朝と成リ武勇と  
勵む依て平家より而も渡死せざる又  
義家朝臣より佐々木の宗人預け  
のつ如の細細の宗あり中少の義家の  
自衛の巻物より秀義の宗の  
印鑰をへ平家義家皇朝射の庫為

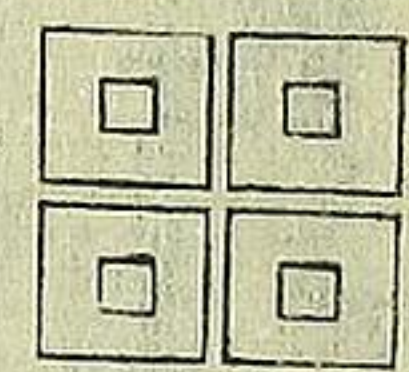
三子所多賀城の南政所の内坪山在按察使下向の時歸る

物之世ゆふ又承久年後三幸奥羽軍の死印鑰の死國分  
寺連彦傑同族方傑按察使都府以牙校盤孔式多賀城  
法則を以て是秀義が預りて是ハ佐藤兼て大寺の由  
秀義四年の徳を以伊豆小内守の時患く其秀義ハ  
不慮に離れて方方あく皇列の秀義ハ同交交なれば健て  
頼手人と一類の引てむる小相方の流石皇國の國あり  
由是是小寺宗十郎時佐藤兼の事あり刻る是等ハ  
兼てせて患く其秀義は考後伊賀の國小内守平家乃  
條兼同國山田形平田の城を籠りてを攻落さんと軍  
功と勵まし終は城を攻落すとて其も其身痛むハ  
負て率て以年々平家右幕下を掃きせりハ其軍小  
寺一の功と渡後の美教多之佐々木の終局世人より始る

同

秀義嫡男  
源定綱

佐々木太郎  
左工門尉



佐々木左衛門尉定綱  
近江

廣綱

同山城守

定重

鏡小太郎左衛門尉

定高

佐々木右衛門尉

信綱

同近江守

廣定

馬淵五郎左衛門尉

時綱

佐保帶刀

行綱

伊佐左門尉

頼定

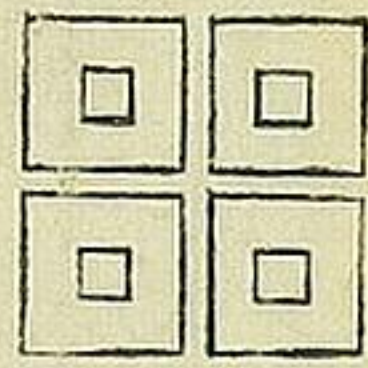
山十守郎

定綱の秀義の嫡男の坊屋伊豆小山守の時  
時多隠退して山守の弟付石橋山の軍中  
小杉曾と平家出陣の益も熱功  
多一依て七ヶ國の内めて之を定め  
中にも隠退の由一傍又地所となり  
長門石見の備と命せざる長男  
廣綱の後を飛院の少衛小信ト兼之の  
の親より系方由て彼軍一因ては

同

定綱四男  
源信綱

佐々木近江守



佐々木近江守信綱  
近江

重綱

小原太郎左衛門尉

高信

高島隱岐守

泰綱

佐々木壹岐守

氏信

同近江守

滿信

京極左門尉

頼綱

佐々木備中守

鎌倉式目

信綱の山門より教所とありしより系方の命より唐橋の隠退  
兼首より四男信綱家督と終る

信綱武勇又小方ら儀兼之礼の時と  
一番より宇治川と後して多るを嫡子  
と希重綱の次同く世をなす  
甲冑と控持赤裸の女弓茶と  
ゆふあはきよ後して人の身月を  
うしを捕とありしを信綱の中務  
の妹兼あまは伴定光小加ら終る

長綱 西條壹岐守  
輔綱 鳥山左門尉

同

秀義三男  
源經高

佐々木二郎  
兵部丞

高重

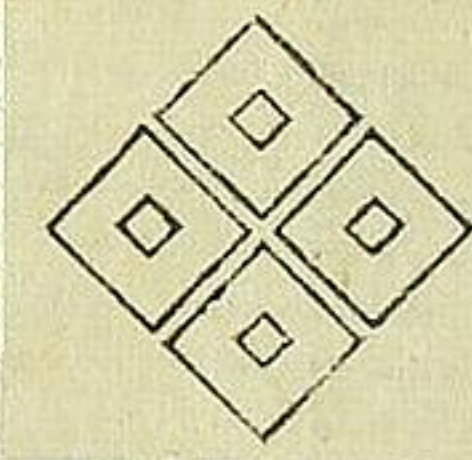
同 弥太郎判官

高範

同 左門尉

秀義三男 源經高 佐々木二郎 兵部丞 高重 同 弥太郎判官 高範 同 左門尉  
免作の父と云ふことと被再西條合と云ふ事と如て自害を以て其の  
系合我より捕と云ふことと被再西條合と云ふ事と如て自害を以て其の  
の功多ふもの法と云ふことと被再西條合と云ふ事と如て自害を以て其の

佐上ノ叙する信徳を依るの嫡流  
しとて



佐々木兵部丞經高  
近江

同

秀義三男  
源盛細

佐々木三郎  
左兵工尉

成綱

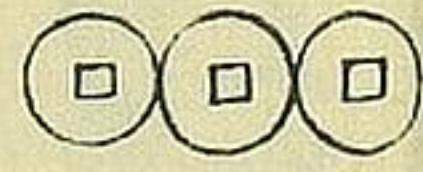
木村源三  
加地右兵工尉

信實

佐々木左門尉

盛季

季忠 磯部左門尉  
實秀 加地右兵工尉  
時秀 同 左門尉  
信重 同 右門尉  
資實 同 左兵工尉  
茂綱 倉田五郎  
時基 加地左門尉



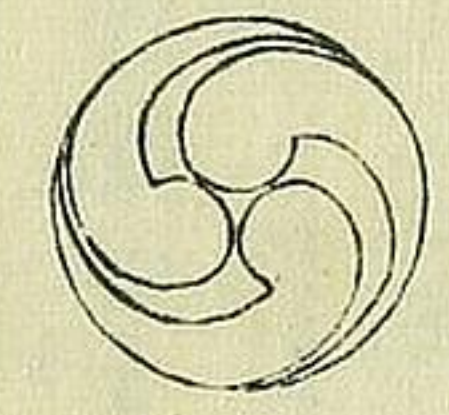
佐々木右兵衛尉盛細  
備前

登忍伊豆より逃過して其の軍小  
功あり平家長付の時備前の友戸の海と  
馬ゆて後平家と追はるる頼朝より  
古今未嘗有の事盛細は其の事記を奉  
紙後の城小を尋資盛及送を尋資  
尋資の城小を尋資盛及送を尋資  
伯母板額女勇力なりは其の事記を奉  
妙を以て百餘百中の精雲之海を尋資  
とも小坂小の精雲之海を尋資



氏細 加地左門尉  
信朝 同八郎

敵の手に射てあせりし  
生捕と云々 鎌倉へ引き  
男 秀重 一 秀重 一 秀重 一  
功 務 徳 加 藤 加 藤 加 藤



佐々木左衛門尉高細  
出雲

秀義四男 佐々木四郎  
源高細 左門尉  
重細 同太郎  
光細 野木二郎左門尉

高細の伴 巨の國よりして  
山本の兵 付あも功あり

高重 同左門尉

け 時 主 後 終 七 務 あり  
や とも の 徳 治 あり  
別 の 勇 力 振 あり  
あ して 七 之 内 外 宇 治 川 の 先 陣 あり  
か 生 涯 の 間 戦 ひ 石 見 山 門 の 悪 務 勅 命 あり  
山 本 の 兵 付 あり  
今 交 付 死 せ ぬ 人 何 處 へ 入 たり 日 坂 山 上 の 軍 あり

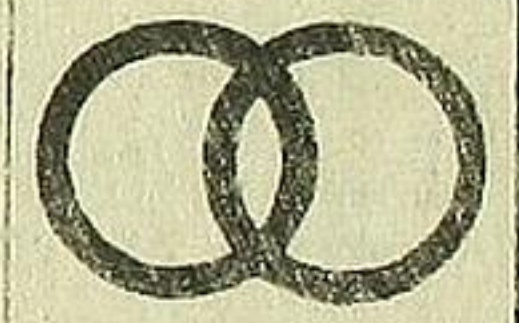
總討死守り皆そ河の遠らざる所感ざるとも子孫生れよ  
保く野木氏なりて氏とす

同

秀義五男

源義清

佐々木五郎  
隱岐守



佐々木隱岐守義清

隱岐

泰清

隱岐二郎信濃守

政美

同太郎 左門尉

ゆえこれより一の戦功を勤まるともより源氏の  
一統とありて隱岐の國のお徳と武代と隱岐は終るて  
氏とありて隱岐守なりて終る

秩父

桓武天皇五代上総介良兼  
八代秩父權頭重綱男大郎  
重弘長子

平重能

畠山庄司



ちのぶのーちりーちげま  
秩父莊司重忠  
武藏

重忠 畠山庄司  
重清 長野三郎  
重宗 畠山六郎  
重保 秩父六郎  
重秀 同小二郎

重忠の老多く付せて平家の國を世の人にもそをそがう再

首の角をさすまの村山あひ傳へ二千餘騎出でて二浦が夜との場を  
 渡りて大女長明を討てたつたれども源氏の相恩を乞ひて筑後角田  
 川と渡りて筑後へ討へり。討勝せ川の板橋に陣を構へありて陣を  
 世討に候はばさうさうに筑後の志願と同トきふより同ひの心を  
 尋ねて源氏又十騎武旗八幡夜出陣の國守源氏由良丹の長一書  
 小まひあはれ一儀承りつり先陣を動かす今ふ利の事なれども筑後  
 川吉野の事ゆゑありてこれより白旗を降つてとて由良の意年を  
 のりて是と押さへてとて又より宇治川あひ渡りて筑後の志願を  
 味方陣を大軍とた右より提向の岸へ提上けて先陣は進ませ  
 一の首の軍兵馬と負ひて野戦と爲りて四出九列の勇戦まに  
 源氏を奮勇征討の時も先陣を動かすつて提上りの味方軍功を  
 不敵と守りて後には源氏を動かすつて提上りて後には味方の軍

穿襲の時九列の由良丹と源氏を率領する者勇力なる誠  
 けは角力の進軍とて源氏同義の事ゆゑ白旗を降つたなり波多世三郎  
 登道下は捕へて言ひ命せしむる。別侍の勇捕へてするふ別侍  
 まがら後刀を抜て突んとて死なむ例はなり。つらむとて別侍の  
 持るる白旗掲げたる中より一の別侍壯志より登道板く  
 せし捕て登道下つりて討勝の役人を源氏紀内とて源氏登道と  
 石原を別侍は捕へて言ひ命せしむる。別侍の勇捕へてするふ別侍  
 まがら登道下は捕へて言ひ命せしむる。別侍の勇捕へてするふ別侍  
 て紀内は言ひ命せしむる。別侍の勇捕へて言ひ命せしむる。別侍  
 中は言ひ命せしむる。別侍の勇捕へて言ひ命せしむる。別侍  
 されんや。登道下は捕へて言ひ命せしむる。別侍の勇捕へて言ひ命せしむる。別侍  
 とすかまひの條に言ひ命せしむる。別侍の勇捕へて言ひ命せしむる。別侍



重成 稻毛三郎

重朝 榛谷四郎

行重 小山田五郎

重政 小沢三郎

新子後て大戸三郎  
ハ字佐美子一祐付不付

ゆて勢ひあり武功あり其の性倭奸  
あり妻女の妬みありて小僧に妬み  
牧の身と密に行きて重朝の妹と  
殺せ給ふの傍に重朝が寛と憐れ  
まゝに重朝を憐んで是を殺せ給ふ  
ハ字佐美子一祐付不付

有重二男  
平重朝

榛谷四郎

重秀 同太郎



榛谷四郎重朝  
武藏

重朝の武勇の譽ありて教養軍功

秀重 同二郎

平六の重朝村の娘と  
け付書せし

川越

秩父権頭重綱二男

平重隆 秩父二郎太夫

能隆 葛貫別當

重頼 川越太郎

重房 同小太郎

重時 同二郎

重貞 同三郎



川越太郎重頼  
武藏

重頼の重頼とたよ佐後の山崎よ  
まよりの所々の教ふ功あり  
重頼を流してまよりの重頼とたよ  
あり佐後の山崎よありの重頼  
重頼の重頼とたよ佐後の山崎よ

又祖の忠切よりて武將の國を授けを命ぜり候

江戸

重細四男 江戸四郎  
平重繼

重長 同六郎  
右兵工尉

親重 同二郎

重道 同四郎

重宗 同七郎

能範 同左工門尉

景益 同八郎

重保 同七郎



江戸右兵衛尉重長  
武藏

重長 同六郎 右兵工尉  
親重 同二郎  
重道 同四郎  
重宗 同七郎  
能範 同左工門尉  
景益 同八郎  
重保 同七郎

室長ハ石橋山の時中歎つりといへども  
佐渡下総小田代ありて由使と成候所ハ  
汝も武將の格候なりし所ハ武將ハ  
てつて来こと室長於兼して子孫一族  
と興一親父の室長となし南田川の  
山崎ありて降参し是より軍功少

葛西

上総介良兼九代三郎清光男

平清重 葛西三郎右兵工尉  
壹岐守

重元 同四郎

朝清 同伊豫守



葛西壹岐守清重  
武藏

武將の譽ありし所ハ陣の時中切抜候  
所ハ兼て二の忠公と云ふ  
嫡子守元ハ其父の山門の徳丸の付  
付記も二所加治の伊と云ふことあり

清重ハ豊後清光と同く南田川の  
山崎ありて降参し是より軍功少  
と興一親父の室長となし南田川の  
山崎ありて降参し是より軍功少

澁谷

上総介良兼五代秩父將恒孫



澁谷庄司重國  
相模

平重國 汲谷庄司

重佐 同右馬外

高重 同二郎

時國 同四郎

清重 同二郎左門尉

息重佐守河川... 氏南ありて...

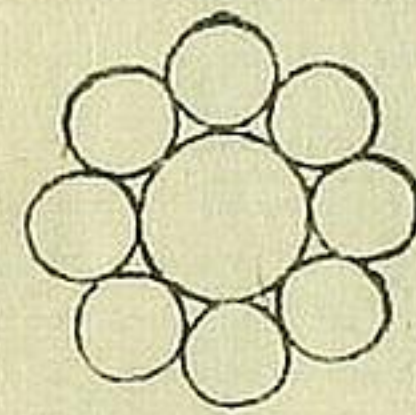
土肥

良兼五代山邊禪師頼尊

中村座主宗平長男

平實平 土肥二郎

速平 同弥六郎



土肥二郎實平

相模

實平ハ依後... 氏南ありて...

維平 同先二郎 左工門尉

倫平 同先二郎 小早川二郎

景平 同先二郎 右兵工尉

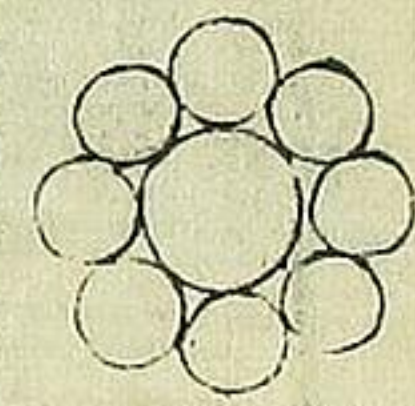
茂平 同美作守

季平 新庄二郎

おる... 中園の... 氏南ありて...

土屋

宗平二男  
土屋三郎



相模  
土屋三郎宗遠

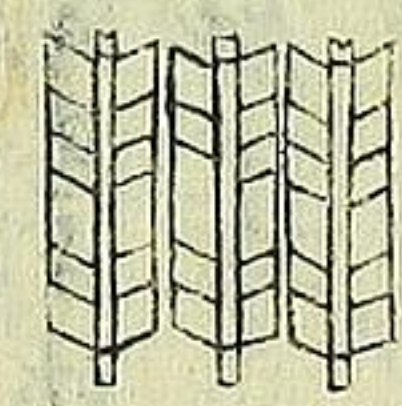
宗光  
同三郎左門尉

我功ありする孫景時

梶原

良兼五代鎮守府將軍村岡  
小五郎忠通三代梶原太郎  
景久男  
梶原太郎  
平景長

景時  
同平三



相模  
梶原平三景時

梶原時平の娘と大倉侯野の僅信の孫の孫  
後を継ぎしと石橋山小戦の待利と

朝景  
同刑部丞

景貞  
同右兵衛尉

景衡  
同二郎

景盛  
同三郎

景氏  
同七郎

景季  
同源太左門尉

景高  
同平二左門尉

景茂  
同三郎右兵衛尉

景國  
同六郎

景宗  
同七郎

景則  
同八郎

景達  
同九郎

景貞  
萩野二郎

大倉侯野佐後の正の孫と為て松山の要  
所なる附とある佐々木あり系附へて  
る小佐佐木世の孫あり系附類あり  
痛くそいふ系佐佐木ありそいふ系  
運のそいふ忘れぬありと佐の田原のそ  
運より引子佐々木の標旗出ては同ゆ  
るをねば佐佐木の正の孫佐佐木  
といふ系附佐佐木あり佐の孫と佐  
とて佐佐木の正の孫佐佐木ありそ  
系附が中をねば佐佐木の系附二あり  
といふありそ我佐佐木ありそあり  
時ありそねりては佐佐木の系附



人勇ひまどかありての當りまのなるもしとてあてあて切死せん  
 實に我を命を命法に双の海ありて是を精軍と云ふは後  
 を作りし又同軍の軍をのこみて軍をのこりてせんといふ  
 事ありて程ありていふありて後を直ぐに遣はれし言はれ  
 へはあまけ功又後解たりの勇方も精きて軍も功者一の合の  
 戦ひもまよして敵討つて引て味方とるるにハ精きていふ  
 勇討もあてては勝ゆり知て我今もさび敵討は向ふ必首  
 となるべうづば早く敵めさるるにさしてさ敵討と終るさ  
 まが味方ハ我が敵討に合調に敵討とさして時とさして  
 之百人とさるる九も傷も推して切て入のさしてさあして  
 隣へ向へはさるるのさして一人も討つさあして敵討とて  
 討とさるるはさるるさるるさるるのさしてさあしてさあして

我功も他を勇ありては西の精多ありて敵討の別當と云ふて出  
 討一也と云ふれども性愛倭奸ありて連絡の事論よりありて  
 義経は信長を討つてさあしてさあしてさあしてさあして  
 六平の人連とてさるるにさあしてさあしてさあしてさあして  
 他一の言も退く兼てさるるの者は同志の族ありて合せ  
 ると云ふ言はんといふ一教は率してさあしてさあしてさあして  
 國境のさるるのさるるのさるるのさるるのさるるのさるるの  
 以命取田の事未始の頃のゆりあり合さるる言目とてて  
 かと思ひかろふは定経舎狐をさるるさるるさるるさるる  
 ざうとさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに  
 勇に推して傷くさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに  
 て言ふ由は常流川に常船載さるるにさるるにさるるにさるるに

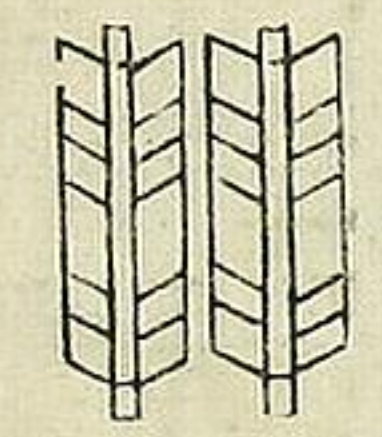
らたきりて大不敵い中めも昔のあはれハと帝を承て侍をり  
系時をてらふまうと流せん時強河の吉の由弁の才一の勇使  
り彼が門あさる時わぬあふとを思れとと國争のく遊ふ  
死ありて攻とるわづよ系山系宗系別系連も侍は板系前入  
是とありしと系山系宗系別系連も侍は板系前入  
後倉より之浦系系村比企系系府精成系系府お付まじりてま  
と後事跡これわづとを系山系宗系別系連も侍は板系前入  
寵にめて海をてつる各派のり系山系宗系別系連も侍は板系前入  
又一の谷の我ひは敵中よれ流られ梅の系派敵よさうて若く  
さるぞと又系山系宗系別系連も侍は板系前入  
侍へる梓らして人の心とめらと吟とて系山系宗系別系連も侍は板系前入  
と系山系宗系別系連も侍は板系前入

系山系宗系別系連も侍は板系前入  
子系山系宗系別系連も侍は板系前入  
免えて室朝多ははく大屋能の  
虎狼の殺と此の是ハ後代与る客役の三幸あると小山結  
係が差るぬあれとも後代与る客役の三幸あると小山結  
真と小命とくする系山系宗系別系連も侍は板系前入  
和国の系山系宗系別系連も侍は板系前入  
系山系宗系別系連も侍は板系前入  
後代与る客役の三幸あると小山結  
系山系宗系別系連も侍は板系前入

大庭

忠通三代権五郎景政三代  
鎌倉系山系宗系別系連も侍は板系前入

平景房 大庭庄司



大庭平太景義

相模

系山系宗系別系連も侍は板系前入

大庭平太

景親  
同三郎  
景久  
保野五郎

景慈  
大庭小三郎

大庭小三郎

景親の由も宗一先と云く為朝は  
 孫江村と云て以歩ふ叶哉揚ふの由ぞ  
 と云くも信房は志しと云くも宗久の  
 の古も宗久の由も宗久の由も宗久の由も  
 宗久も武勇ありゆへに和国の宗久一味して付たそ  
 宗久も宗久の由も宗久の由も宗久の由も  
 若るも信房宗久の年と云くも宗久の由も  
 石橋山にて之を戦ひ利と云くも宗久の由も  
 軍と云て鎌倉より移りてなる宗久の付も下向の  
 長田宗久宗久と云くも宗久の由も宗久の由も  
 源氏と云くも宗久の由も宗久の由も宗久の由も  
 八囚人と云くも宗久の由も宗久の由も宗久の由も

結へき後本書及中出小部りありて宗久宗久より行むる宗久の由も  
 加賀國藤原合戦に付たりて宗久の恩也

### 長尾



長尾新六定景  
相模

景政四代二郎景弘二男  
平定景 長尾新六

景茂 同平内左門尉  
胤景 同二郎左門尉

宗久の由も宗久の由も宗久の由も宗久の由も  
 と云くも宗久の由も宗久の由も宗久の由も  
 宗久の由も宗久の由も宗久の由も宗久の由も  
 宗久の由も宗久の由も宗久の由も宗久の由も  
 宗久の由も宗久の由も宗久の由も宗久の由も

石を破りおのひてゐるふを尾室が殿の中よきつと  
傳へしありたりそまはるゑよと向ふにまゝ言てくれども我  
る様ゆきてそ忠を付しり戦場のあゝいといふとどきまゝたあ  
る者もればあゝよふと我今囚とぬき用首級割らる  
死にけし修する鬼とぬてまたと戦へんもあゝゆへて被忍  
魂何辱めて大恩の弘誓を祈ひよふ我身の罪除消滅の爲  
あもく一日百巻を讀むといふそまはるゑて言ふよそんを付も  
付しりも私の娘よあゝとてうもてまゝまゝ言てくれども  
ふれと右幕少左室東が助命を頼ぐよはゆははまゝわゝる  
も尾室れをさもつてもこのは後よふりい赦免と蒙りし家入  
小判一是よりたゑとて建保七年二月廿七日の曉に因  
梨室御公と頼しりし時と曉の行はは撥まればあゝりて

くはつら うちきり  
と曉を行きて美とあつる嫡子も長もけけしとまゝは勇を頼り  
とまゝ子もつ時め村まゝの三人の三浦忠村が逢ふよとて付  
ふと二男流流の子孫お宗帯て代く武勇あり

工藤

右大臣武智麻呂十代駿河守  
維景四代

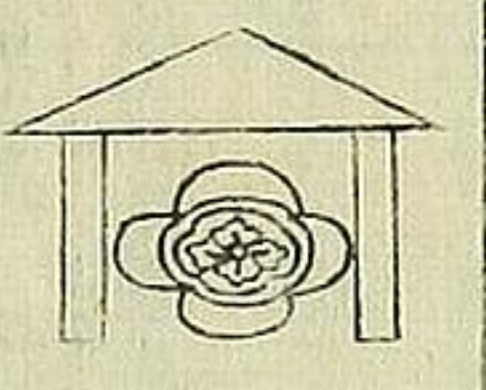
藤原家次  
狩野四郎太夫

祐次  
工藤瀧武者所  
入道 病心

祐親  
伊東三郎入道

家光  
工藤四郎

茂光  
狩野介



工藤左衛門尉祐經

伊豆

祐經は先祖維宗より代々伊豆守に  
之は是の在代に及ぶと又祐次より伊東  
公祐親にけけしこの在代よりあるは不  
兄弟の中を和めて出入する事あり  
祐次入道とて家名よりいふ事不詳に

祐恭

河津三郎

祐清

伊東九郎

女子

頼朝卿妾  
後山木兼隆室

女子

二宮太郎朝忠室

祐成

曾我十郎

時致

同 五郎

祐經

工藤左門尉  
卿名金石丸

祐茂

宇佐美三郎  
左門尉

祐時

伊東大和守  
卿名犬房丸

祐長

工藤六郎

推しおろさるる我より怒りて雨降るは清一合志する事未  
知るるは玉照の徳りありて世の偏りなき事ありと云ふ

祐親は是安きこと之婿の程子のごとく合志す我がよ之必お願ひあり  
ましりし床公の病苦公を忘れて大に恨ひ合志すも祐親と云と云ひ  
不孝の如ひありととて教訓してその後卒去り是より祐親は兄  
の節より後上合志す其由は祐親は兄より上りて上り入道ひの節は  
三つの座に押居して心のすむを振出る合志すは長と云はれども  
正徳は之を合志すもいとともと云はれ合志すはひの節は是は  
師の祐親は富るあり多く祐親は利ありあり却て合志す非ざる  
と云ふあり居るありと云はれしを流して後河あり京屋のハ一族の  
すもわれハ世よりと云はれしを流して祐親は窺ふも又佐屋ハ伊  
豆由配流の由ありしと云はれしと云はれしと云はれしは佐屋ハ  
歴ありしと云はれしと云はれし山のもは祐親は時合志すは是を  
祐親より多末太人の小屋を八幡世の三弟と云はれしと云はれし余



皆々... 尾藤... 加藤... 河村... 伊賀... 比企... 金子... 三善... 飯田... 高橋... 白井... 原野... 仁田...  
 也世之族字... 鎌倉武鑑初編畢

鎌倉武鑑初編畢

大江	島津	大友	宇都宮	八田	中條	山内	鎌田
尾藤	那須	加藤	後藤	近藤	宇佐美	狩野	工藤
波多野	松田	河村	原	岡部	船越	三階堂	安達
編	林	伊賀	毛呂	天野	熊谷	平山	仁田
目	海老名	比企	金子	糟屋	安西	田代	河野
江	市川	横山	三善	飯田	高橋	白井	原野
水谷	安保	愛甲	海野	吉河	兒玉	真壁	小栗
曾我	金丸	東條	九	藤田	斤岡	堀	由利
安藤	中野	小諸	本間	二宮	豊前	手越	飯富

文政二年己卯春正月

書肆

尾州名護屋玉屋町 永樂屋東四郎  
 江戸小傳馬町三丁目 葛屋重三郎  
 同 同所 丁子屋平兵衛  
 同 馬喰町附木店 江見屋吉右衛門

二編三編嗣出

